

魚津市中期財政計画（概要版）

【令和7年10月策定】

1 計画策定の目的

- 少子高齢化の進行による社会保障関係費の増加や物価高騰による財政負担の増加が見込まれる。
- 本庁舎をはじめとする公共施設の老朽化が進んでいることから、今後、その建替えなどに多額の費用が必要。



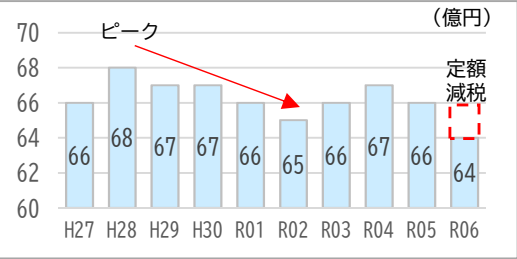
計画的な行財政運営に向けて「魚津市中期財政計画」を策定

2 基本的な考え方

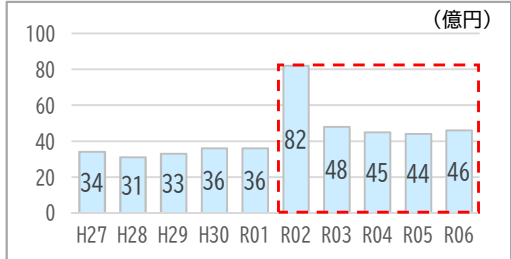
- ① 計画期間  
令和8年度～令和12年度（5年間）
- ② 計画の見直し  
今後の財政状況や新たな行政需要などを考慮し、毎年度見直し
- ③ 会計の単位  
財政見通しの会計単位は「一般会計」

3 魚津市の財政状況

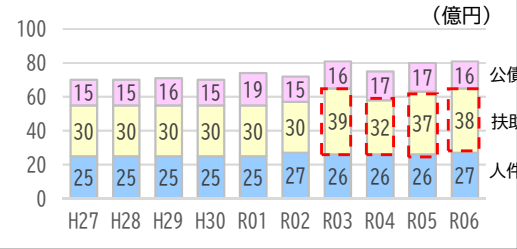
- ① 市税の推移  
66億円前後で推移。R6は定額減税



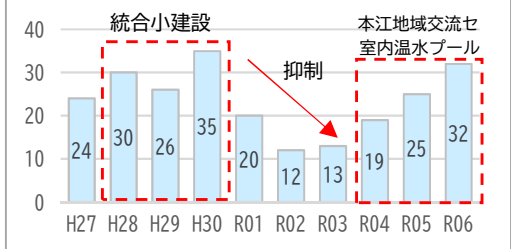
- ② 国・県支出金の推移  
コロナ・物価高騰対策のためR2～増加



- ③ 義務的経費の推移  
コロナ・物価高騰対策のため扶助費増加

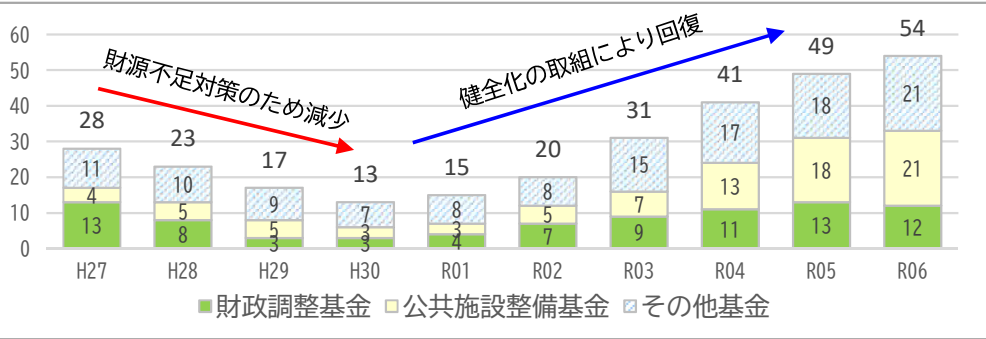


- ④ 投資的経費の推移  
室内温水プール整備等で増加



4 基金の状況（H27～R6）

- 平成28年度以降、財源不足を補填するため基金残高は急速に減少
- 令和2年度以降、行財政改革に取り組んだ結果、基金残高は回復  
<年度末基金残高の推移> (単位：億円)



5 財政収支見通し（R8～R12）

- 義務的経費は、公債費が一時的に減少していくものの、扶助費が社会保障関係費の伸びにより増加傾向であるため、全体的に高い水準で推移
- コミュニティセンターや新庁舎の整備などにより、中期的に投資的経費とその財源である市債等（その他収入）の増加が見込まれる。

<一般会計 歳入・歳出の財政見通し> (単位：百万円)

| 歳入      | R7当初   | R8見込   | R9見込   | R10見込  | R11見込  | R12見込  |
|---------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 市税      | 6,445  | 6,633  | 6,578  | 6,658  | 6,740  | 6,689  |
| 地方交付税   | 3,720  | 3,710  | 3,798  | 3,851  | 3,826  | 3,835  |
| その他     | 11,423 | 9,975  | 11,822 | 11,682 | 10,026 | 10,234 |
| 歳入合計①   | 21,588 | 20,318 | 22,197 | 22,191 | 20,592 | 20,758 |
| 歳出      | R7当初   | R8見込   | R9見込   | R10見込  | R11見込  | R12見込  |
| 義務的経費   | 8,548  | 8,394  | 8,391  | 8,532  | 8,603  | 8,661  |
| 投資的経費   | 3,083  | 2,317  | 4,567  | 4,367  | 2,695  | 2,525  |
| その他経費   | 9,957  | 9,877  | 9,590  | 9,592  | 9,556  | 9,968  |
| 歳出合計②   | 21,588 | 20,588 | 22,548 | 22,491 | 20,854 | 21,154 |
| 差額（①-②） | 0      | △ 271  | △ 351  | △ 300  | △ 262  | △ 396  |

6 計画的な行財政運営に向けて（今後の取組）

- 毎年の財源不足は、事務事業の見直しなど継続的な行財政改革の取組や国・県の補助金、企業版ふるさと納税などの財源確保により解消
- 財政調整基金は、安定的な行財政運営に向けて適正な残高を確保
- 公共施設整備基金は、毎年3億円以上を積み立て、新庁舎整備に備え令和8年度末までに残高20億円以上確保
- 減債基金は、令和9年度以降、剰余金を活用しながら積立